

檜山 哲彦(音楽学部言語芸術)

句集『壺天』について

俳句を作り始めるきっかけは、同じ研究室で俳人の沢木欣一先生と一緒に
なったことにある。

最初はしかし酒好きの先輩といった態で、呑みに連れ回してもらおうという間
柄だった。「俳句を作ってみんか、面白いぞ」と酒席でたびたび言われているう
ちに、こちらも言葉を扱うのは嫌いではない、「ええやりましょう」ということにな
った。

今にして思えば、すてきな玩具を貰ったものである。気に留った風景や気分
を、五七五という定型でひょいと切り取ることができる。スナップ写真とはち
がって、句にはその場の靈気も封印されて残っている。

しかも、俳句には他人に読まれてはじめて完成するという面がある。おのず
と人交わりの輪も広がってこずにはいない。

そうして十五年間に作り溜めた句から選んで句集を作った。題名の由来は、
あとがきをお読み下さい。

(2002年11月 教官アーカイヴ展に寄せて)